

Product Reviews

HTMLの知識不要で簡単ページ更新 ウェブサイト管理ソフトの新機軸

Macromedia Contribute
マクロメディア

3月25日発売

発売記念価格：9,800円

表示、編集、公開の3ステップでスピーディーにウェブページを更新ウェブページをゼロから作ることに主眼を置いたソフトが大勢を占めるなか、まったく別の視点から開発されたソフトが登場した。「Macromedia Contribute」は、ページ更新に力点を置いた新機軸のウェブページ編集ソフトだ。

ウェブページ作成ソフトは、次々に機能を強化して複雑化している。その結果、必要なときにいつでもすぐできるはずのページ更新がいつの間にか手間のかかる仕事になってしまった。そうすると、サイト所有者は、ちょっとした変更をするにもウェブサイト制作のプロに作業を依頼することになる。第三者を介せば、それだけ余計に時間がかかり、ウェブのメリットを生かせない。ウェブ制作者にとっても、更新作業に時間を取られ、本来の業務であるウェブ開発に支障をきたしかねない。そこに目をつけて誕生したのがContributeだ。

ウェブサイトの更新担当者には、サイト管理者から前もって添付ファイル付きのメールが送られる **A**。拡張子が.stcの添付ファイルは

「接続キー」と呼ばれ、更新担当者はこの接続キーを使って更新対象のウェブサイトにアクセスする。

Contributeを使ったページ更新は実に簡単だ。サイト管理者から送られてきた接続キーをダブルクリックすると、Contributeが自動的に起動してサイトに接続する。なお、このときパスワードの入力を求められる。次に、ワープロソフトの要領でページを編集して情報を更新する。表示モードから編集モードに移るには、画面左上の[ページの編集] **B** ボタンをクリックするだけでいい。編集が完了したら、[ページの公開] **C** ボタンをクリックすれば、更新したページは自動的にサーバーにアップロードされる。このわずかに3ステップの作業でウェブページを更新できるから、必要なときにスピーディーに更新作業を行える。Contributeの表示モードはウェブブラウザそのもので、ツールバーには[戻る] [進む] [更新]といったおなじみのボタンが並んでいる。アドレスバーにURLを入力すればどこのサイトにもアクセスでき、サイトを登録するブックマーク機能まで付いている。

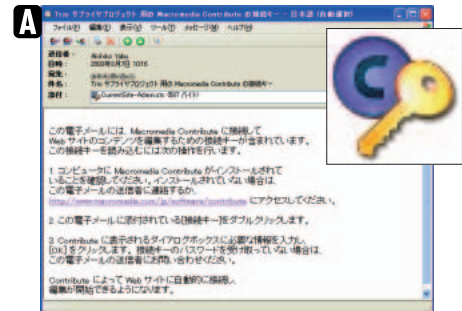
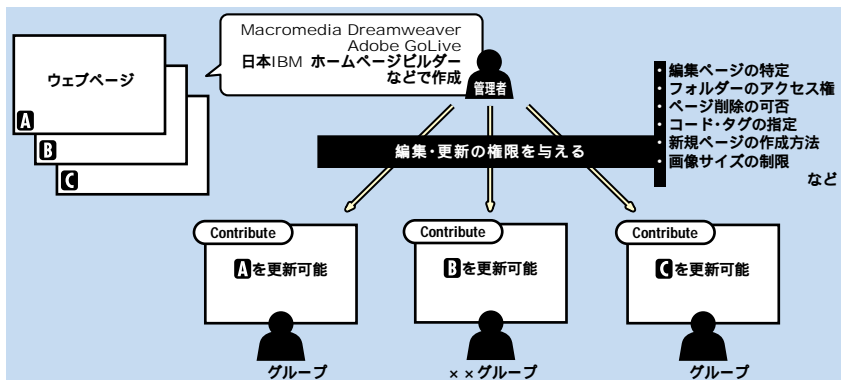


ウェブサイトの構築とウェブページ更新を分離することで、更新のスピードアップを図れると同時に、サイト管理を効率化できる。

担当別に編集範囲を制限して ウェブサイト管理の効率をアップ

編集モードの画面は、シンプルなワープロソフト風だ。PCを使っているユーザーであれば、事前に操作法を学ばなくてもすぐに使えるだろう。テーブル内にポインターを置いて右クリックすれば、行や列の追加、削除、セルの分割やマージ(結合)も簡単にできる。Contributeでは、このように編集対象を選択した状態で右クリックするとプルダウンメニューが表示され、ここからメニューを選ぶだけで大半の機能を実行できる。たとえば、画像を選んでプルダウンメニューから「イメージの編集」を選択すると、PCにインストールされているグラフィックソフトが起動して、その画像を編集できるようになる。公開する前に、更新したページを別の人に確認してもらわなければならないこともある。そんなとき便利なのが「電子メールレビュー依頼機能」だ。この機能を実行すると、更新したファイルがウェブサーバー内の所定のフォルダーに保存され、そのURLが電子メールで指定した相手に伝えられる。電子メールを受け取っ

サイト管理の方法



管理者から送られてくる接続キーが添付されたメールの例。アイコンをダブルクリックすれば、更新するサイトに接続できる。

た相手にContributeは必要なく、ウェブブラウザで更新ページを確認できる仕組みだ。更新したページに不具合があっても、「ロールバック機能」を使えば以前の任意のバージョンにページの内容を戻すこともできる**D**。

簡単にページを更新できるContributeだが、更新担当者はサイト内の全ページを自由に変更できるわけではない。担当者が変更できるのは、自分が担当するページに制限される。デフォルトでは、担当ページは自由に編集できるものの、ASPやPHPなどのスクリプトタグやフォームタグは編集できない。これは、ページのデザインが変更されたり、スクリプトが誤って書き換えられたりするのを防ぐためだ。

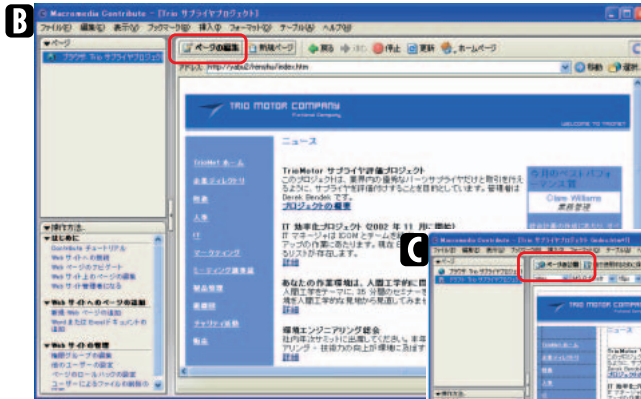
このように更新担当者の編集権限を制限することで、サイト管理者にとっては更新後の確認作業が楽になり、負担が大きく軽減される。

更新担当者の編集権限を決定するサイト管理者

更新担当者に何を許し、どんな制限を与えるかを決めるのはサイト管理者の役割だ。[編集][Webサイトの管理]からサイトを選ぶと、[Webサイトの管理]ダイアログが表示される**E**。このダイアログで更新担当者のグループを設定し、グループごとに編集可能なフォルダやファイル、編集内容などの権限を設定する。編集内容を、テキスト編集とフォーマットだけに制限することも可能だ。また、ロールバック数の設定や接続キーの送信、パスワードの設定もこのダイアログから行う。

Contributeは、ウェブページ作成ソフトが生成したコードを一切変更しないため、アドビのGoLiveや日本IBMのホームページビルダーなどのどんな作成ソフトとも共用できるのが大きなメリットだ。が、より便利なのは、同じマイクロメディア社の「Dreamweaver MX」と組み合わせただけの場合だろう。最新のアップデートを適用すると、Dreamweaver MXからContributeの管理機能を利用できるようになるのだ。

Contributeでは、誰かがページを編集しているときに別のユーザーは同じページを編集できない。不用意な上書きを防ぐためだ。これ



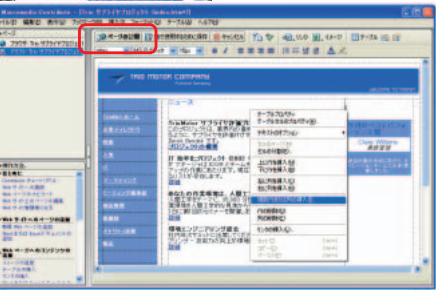
【表示モード】
ウェブブラウザ風の表示モード。左上のペインには、接続しているサイト名などが、右下には操作方法が表示される。

【編集モード】
右クリックで表示されるメニューを選択すれば、大半の機能を実行できる。編集が完了したら、左上の「ページの公開」ボタンをクリックだ。

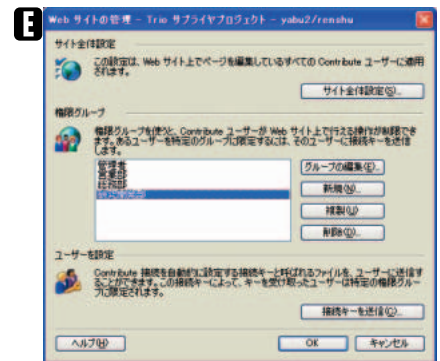
を「チェックイン/チェックアウト機能」**F**といひ、Dreamweaverも同様の機能を持っている。また、Dreamweaverは、サイトの外観を統一してページデザインを守るために、ページ内に編集不可能なロック領域を設けたテンプレートを作成できる。Contributeは、このDreamweaverテンプレートに対応している。このようにContributeとDreamweaverを組み合わせれば、より容易に効率のよいウェブサイトの構築・管理環境ができあがる。しかも、発売記念価格が9,800円と、企業にとっては導入に踏み切りやすい価格設定だ。マイクロソフトワードやエクセルで作ったドキュメントをレイアウトを維持したままドラッグ&ドロップでページ内に貼り込めるなど、気の利いた機能も備えている。「ページ更新に時間がかかりすぎる!」といった社内の苦情に頭を悩ませているITマネージャーにとっては、導入検討の価値がある1本だ。(藪 暁彦)



更新担当者が編集中に同じページを編集しようとするときのような警告ダイアログが、アドレスバー下にメッセージが表示される。



ロールバックの指定をする「ページのロールバック」ダイアログ。画面上に以前のバージョンが設定された数だけ表示され、下には選択したバージョンのプレビューが表示される。



ロールバック数や各更新担当者グループの権限などを設定する「Webサイトの管理」ダイアログ。接続キーもここから送信する。

Macromedia Contributeの動作環境

OS	ウィンドウズ98SE/Me/NT4.0 SP6/ 2000/XP日本語版
CPU	Pentium II クロック周波数300MHz以上
ハードディスク空き容量	40MB以上
メモリー	64MB以上の空きメモリー
その他	CD-ROMドライブ、Internet Explorer 5.0以上、インターネット接続環境など
参考URL	http://www.macromedia.co.jp/software/contribute/
問い合わせ先	カスタマーサービスセンター 03-3534-7675

どこでもネットワークを構築できる ポータブルファイルサーバー

FSV-PGX1

ソニーマーケティング

3月29日発売

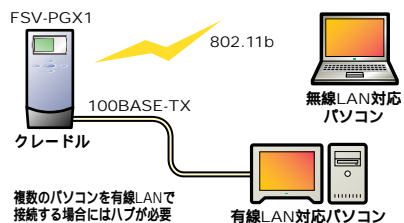
予想価格：70,000円前後

どこへでも持ち運んで ネットワークを簡単構築

FSV-PGX1は、手軽にどこでもネットワークを構築したいという要望を叶えるファイルサーバーだ。FSV-PGX1は、ファイルサーバーとして機能するだけでなく、DHCPサーバー機能や無線LANアクセスポイントも備えているため、パソコン側の設定をDHCPによるIPアドレスの自動割り当てにしておくだけで、すぐにアクセス可能なネットワークを構築できる。

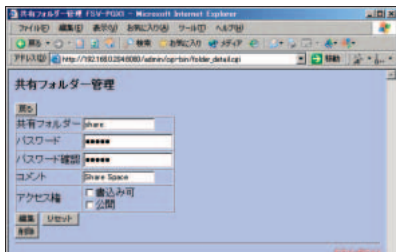
FSV-PGX1はコンパクトで、自由に持ち運びができるのが最大の特徴だ。会議室などで一時的にネットワークを構築したい場合はもちろん、会社と自宅とで持ち運んで利用するなど、さまざまな用途に活用できる。FSV-PGX1は、5つのネットワーク設定を記録でき、前面パネルから容易に切り替えられるので、移動の際の再設定の手間もない。つまりFSV-PGX1を使えば、ネットワーク自身をまさにどこにでも持ち運ぶことができちゃうのだ。

なお標準では、無線LANのみの対応だが、別売のクレードルを使えば、有線LANからも利用できる。無線LANに対応していないパソコンからの利用も問題ない。またバックアップ電源を搭載しているため、突如の電源断によるファイル消失の不安もない(バッテリーでの常時駆動はできない)。



複数のパソコンを有線LANで接続する場合にはハブが必要

ブリッジモードを備えているので、有線LANと無線LANの間でも通信ができる(ただしNATやPPPoEなどブロードバンドルーターとしての機能は持たない)。固定IPアドレスを利用したり、DHCPクライアントとして設定したりすることもできるので、既存のネットワークに参加させるのも容易だ。



共有フォルダーやセキュリティの設定はブラウザから行う。ユーザー管理機能は持たず、フォルダーごとのパスワードでの認証にのみ対応。無線LAN部分は、ESS-IDやWEP、MACアドレスによるセキュリティの制限なども設定できる。

ウェブサーバーとしての利用や カスタマイズも可能

FSV-PGX1は基本的にウィンドウズからの利用を想定しているが、NFS(Network File System)にも対応しており、MacOS XやLinuxなどUNIX系のOSとのファイル共有もできる。注意したいのは、マッキントッシュでサポートしているのはMacOS Xのみであり、MacOS 9からのアクセスはできない点だ。ただしFTPには対応しているため、サポートされていないOSからでもFTPならば利用できる。またFSV-PGX1は、ウェブサーバーとしても機能する。FSV-PGX1に置いたファイルはブラウザからアクセスでき、HTMLファイルを置けばウェブページの公開にも使える。ちなみにFSV-PGX1は、OSにLinuxを採用している。デフォルトでは無効になっているもののtelnetでログインでき、CGIプログラムを動かすなど設定をさらにカスタマイズできる(ただしカスタマイズした場合は動作保証外となる)。FSV-PGX1は20Gバイトの容量しかなく、また24時間の連続稼働も保証されていないので、常設のファイルサーバーには向かない。しかし持ち運べるファイルサーバーは、会議や商談、イベントなどの場面で重宝するだろう。

(大澤文孝)



別売のクレードル(予価7,000円前後)を付ければ、有線LANとも接続できる。



IPアドレスの設定やネットワークの切り替えなどは前面ディスプレイから行える。ESS-IDやホスト名などの情報も表示され、現在の設定情報も確認できる。



重量は約390グラムとコンパクトなので持ち運びも簡単。バッテリーの駆動時間(5分程度)ならば、利用中であっても、一時的に電源を抜いて場所を移動することができる。

FSV-PGX1

OS	Linux 2.4.20
ハードディスク容量	20GB
無線LAN規格	IEEE 802.11b
電源	AC100V
寸法	幅81×高さ155×奥行31(mm)
質量	約390g以下
参考URL	http://www.sony.co.jp/SonyDrive/
問い合わせ先	お客様ご相談センター 0570-00-3311

インクジェット複合機にも対応した 802.11b無線LAN搭載プリントサーバー

NetHawk Wireless-Print 11

3月14日発売

新潟キヤノテック

実売価格：24,000円

キヤノン製複合機を無線・有線でネットワーク化できる

802.11b無線LAN機能を搭載したプリントサーバー「NetHawk Wireless-Print11」が新潟キヤノテックから発売された。USBインターフェイスを持つキヤノン製のプリンターを接続すれば、有線LANまたは無線LANからプリンターにアクセスできる。USBポートは2個用意され、2台のプリンターを接続できる(サテラ/レーザーショットは1台のみ)ほか、キヤノン製のプリンタードライバーでパソコンとプリンターの双方向印刷にも対応した。これにより、プリンターのインク残量や印刷状況をLANにつながった各パソコンから確認できる。

NetHawk Wireless-Print11は、単体で無線LANのアクセスポイントとしても機能する。さらに、インクジェット複合機のPIXUS MPシリーズにも対応し、複合機としての機能(プリンター、スキャナー、ファックス送信)をネットワークにつながったクライアントマシンからでも利用できるのが大きな特徴だ(それぞれのパソコンにCanon MP Toolboxなどのユーティリティーをあらかじめインストールしておく)。また、PIXUS

MPのカードスロットにメモリーカードを挿し込めば、ネットワーク上のストレージとして認識される。保証対象外ではあるが、2個あるUSBポートのうち、1つにはプリンターを接続し、もう1つにはUSBタイプのストレージをつないでNASとして使うこともできそうだ。

3種類の設定方法で ラクにセットアップできる

NetHawk Wireless-Print11には、セットアップウィザード、ブラウザー、専用のウィンドウズユーティリティーと3種類の設定方法がある。セットアップウィザードでは、初心者用を選ぶと、わかりやすい接続イラスト入りのウィザードが表示される。ウィンドウズユーティリティーやブラウザーでは、細かなパラメーターが設定できる。編集部でテストした段階では、まだ試用機だったこともあり、PIXUS MPシリーズのストレージの認識やスキャナー機能などの設定に若干戸惑った。しかし、ちょっとした手間が掛かって、無線LANアクセスポイント機能やストレージ共有、スキャナー共有などの利便性を考えたら、ぜひ使いたい製品だ。(編集部)



向かって左側に各種のインジケータランプがあり、右側に接続インターフェイスがそろった。写真は試用機のため若干塗装が異なる。



キヤノン製のインクジェット複合機PIXUS MPシリーズに接続すれば、プリンター機能のほか、スキャナー、ストレージ、ファックス送信機能も共有できる。



セットアップウィザードで「初心者用」を選ぶと、わかりやすいイラストで接続方法を確認できる。

対応プリンター(キヤノン製のみ)

・PIXUSシリーズ

PIXUS 950i、PIXUS 850i、PIXUS 550i、PIXUS 320i、PIXUS 50i、BJ S330、BJ 895PD、BJ 535PD、BJ F9000、BJ S6300

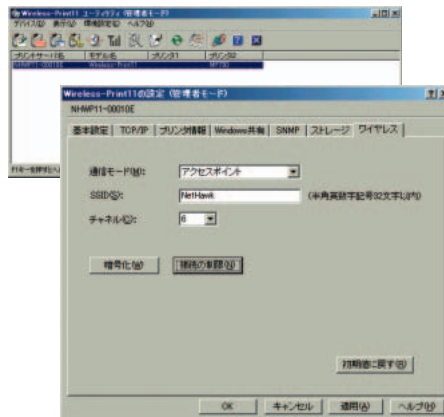
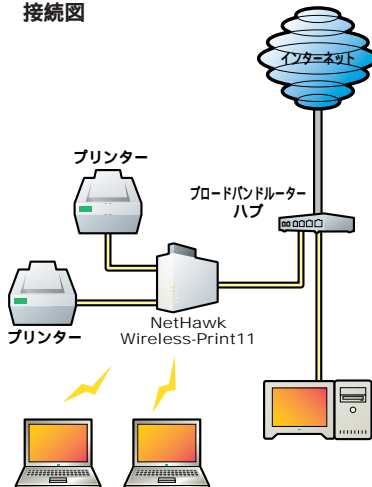
・PIXUS MPシリーズ

PIXUS MP730、PIXUS MP700、PIXUS MP10、PIXUS MP5

・サテラ/レーザーショットシリーズ

LBP-1120、LBP-1210、サテラ LBP-2410

接続図



ウィンドウズ用ユーティリティーの管理者モード画面。ウィンドウズの共有やストレージ情報、無線LAN機能などを設定できる。

NetHawk Wireless-Print11

無線LAN	802.11b準拠
セキュリティ	802.11アドホック、暗号化(WEP 64/128ビット)
有線LAN	10BASE-T/100BASE-TX
インターフェイス	USB1.1 x 2個
PC側対応OS	ウィンドウズ98SE/Me/2000 Pro/XP
電源	AC 100 ~ 120V
寸法(カード装着)	幅140 x 奥行32.5 x 高さ149(mm)
重量	約250g
参考URL	http://www.niigata-canonotec.co.jp/product/
問い合わせ先	ユーザーサポートセンター 025-244-6445

ブラウザを使って ウェブアンケートが手軽に作れる



WEB STYLE SITE1 ライト版 発売中
マーズ

ダウンロード販売価格：58,000円

ウェブアンケートを作り “多数の志向”を知る

不特定多数の人から、広く意見を集める方法としてよく使われるのが「ウェブアンケート」だ。集めた回答は、商品開発や市場調査などの分野に活かせる。ただ、実際に「役立つ」ものを作るのは大変だ。サーバーの運用スキルに加えて、集計用のデータベース設計まで、広い知識が必要になるためだ。「専門の企業に作成を頼むのはお金がかかる」「社内で専任の制作者を置く余裕はない」などの理由から、ウェブアンケートを作成して公開したくてもできない企業やSOHOユーザーは多いはずだ。

マーズの「WEB STYLE SITE1 ライト版」は、ウェブアンケートの作成・集計を簡単にしてくれるソフトだ。最大の特徴は、ウィザード形式で手軽に作れること。質問事項を決め、選んでもらう回答を用意し、回答に対するフォローを決める……という流れで作成できる。デザインテンプレートも豊富に用意され、初めてでもすぐにウェブアンケートを作れる。面倒なディレクトリーの設定もいらず、すでにサーバーを運用しているならアンケートへのリンクを指定するだけで公開・運用が可能だ。導入のしやすさもうれしい。

このライト版は同社の「WEB STYLE SITE1」からいくつかの機能を省略し、ウェブアンケートの作成・活用に特化した。そのぶん大幅な価格ダウン(198,000円→58,000円)がなされていて、導入しやすくなっているのも魅力だ。

- ウィザード操作手順**
- 1 基本項目設定 (公開期間などを決める)
 - 2 質問設定 (個別の質問内容と回答スタイルを設定)
 - 3 回答後設定 (メール送信の有無 / 戻る ボタンの表示など)
 - 4 デザイン設定 (テンプレートなどを利用)
 - 5 認証設定 (ユーザー認証の有無)

アンケートの作成画面。大まかな項目の内容をウィザードで決めていき、あとから必要な部分だけ修正を加え、細かく決めていく方式だ。



回答を集めるだけでなく 分析・活用もできる

「WEB STYLE SITE1 ライト版」を使うと、同時に100個までのアンケートを作成して公開できる。回答の集計・分析機能も充実している。グラフ形式で表示したり、csvやXMLでダウンロードしたりできる。また、ウェブアンケート機能以外に「ユーザー認証機能」や「メール送信機能」も用意されている。これらを使って特定のユーザーに公開するフォルダーを作成したり、条件に合致する相手にだけメールを送ったりすることも可能だ。登録ユーザー向けの専用コンテンツを置く、特定の相手にだけダイレクトメールを送るなどの使い方も可能になる。もちろん、利用場所はインターネットに限らない。イントラネットで「会議日時の希望調査」「特定部署へのメール送信」といった用途に使うこともでき、多彩な応用例が考えられる。ネットワークを使ってビジネスをしている人であれば、誰にでも役立つソフトだと言えるだろう。なお、ウィンドウズXPのホームエディションでもサーバーとして使えるので、本誌のCD-ROMに収録した30日限定の「お試し版」をぜひ実際に使ってみてほしい。そのお手軽さを実感できるだろう。

(椿 浩和)



機能の中心となるのが、複数項目を利用した「マルチアンケート」の作成だ。最大で100個のアンケートを作成・公開できる。公開の期間も自由に選べる。



質問項目の数を決めたら、個々の質問を詳しく設定する。回答方法は「ボタン選択」「メニュー選択」「テキスト入力」などから選べる。



回答の集計結果は、質問項目別にグラフ表示したり、csv形式やXML形式でダウンロードしたりできる。ただし、複数項目の関連を一度にチェックすることはできない。表計算ソフトなどを活用する必要がある。

WEB STYLE SITE1 ライト版

OS	ウィンドウズXP/2000/NT/ RedHat 7.2/J/Solaris8
管理側ブラウザ	Internet Explorer 4.0以上
必須プラグイン	Adobe SVG Viewer
CPU	Pentium III/800MHz以上(推奨)
メモリー	128MB以上(256MB以上を推奨)
ハードディスク空き容量	300MB以上(データを除く)
参考URL	http://www.mars.co.jp/
問い合わせ先	WEB STYLE部 03-5485-7550

リモートでのメール送受信機能が充実 使いやすさが魅力の高性能メールソフト

Shuriken Pro3
ジャストシステム

3月20日発売

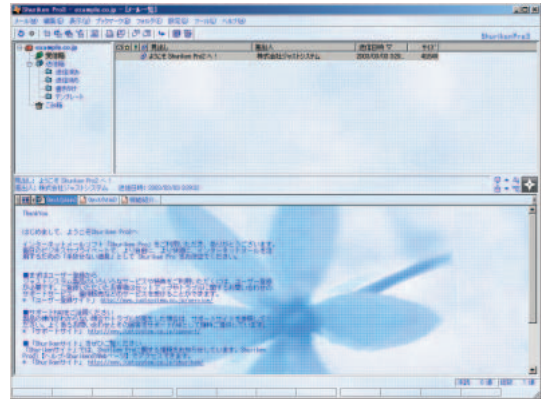
予想価格：4,000円(ダウンロード版3,500円)バージョンアップ版2,500円(ダウンロード版2,000円)



パッケージ版のほか、ダウンロード版も用意されている。

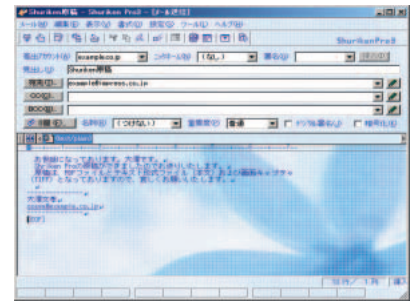
メールをサーバーに保存してどこでも受信できる環境が持てる
Shuriken Pro3は、届いたメールをどこからでも見られるのが特徴だ。
まずその1つの機能として挙げられるのが、同社のInternetDisk(有料:500MBで月800円~)への対応だ。これは、前バージョンのShuriken Pro2から引き継がれている機能で、届いたメールをInternetDisk上に転送するものだ。具体的には、パソコン上でInternetDiskを操作する「IDiskツール」を常駐させておくと、Shuriken Pro3に届いたメールがInternetDiskのメールストレージに自動的に転送される。転送されたメールは、ブラウザを使って参照できるため、インターネットカフェなど、メールソフトがインストールされていない環境でもメールが読めるようになる。
さらにShuriken Pro3では、新たにIMAP4にも対応した。IMAP4では、受信したメールをパソコン側にダウンロードせずにサーバー上で読むことができるため、社内、外出先、自宅など、どこからアクセスしても、同じフォルダ構造で同じ内容のメールを参照できる。
IMAP4を使うデメリットとして、サーバーと接続

したままでメールを読むため、回線速度が遅いと使いにくいという点が挙げられる。しかしShuriken Pro3はキャッシュ機能を搭載しており、一度見たメールは、二度目以降は、サーバーから再取得せず参照できる。このため、IMAP4を利用した場合でも快適に利用できるのが特徴だ。
また新たにLDAPにも対応し、社内にLDAPサーバーがあれば、アドレス帳を共有することもできるようになった。



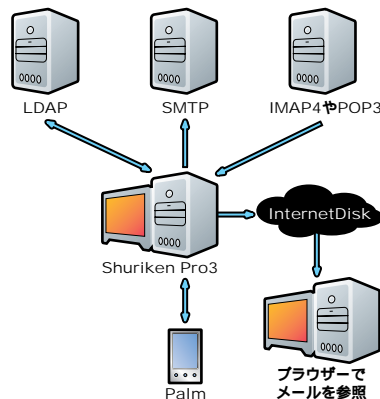
画面のレイアウトやビジュアル(スキン)キーボード操作などは、カスタマイズできる。ファンクションキーで操作できるのも意外と便利。マルチアカウントにも対応し、ユーザーごとに設定を切り替えられる。

メールボックスの暗号化など
使いやすい便利な機能が満載
IMAP4やLDAPへの対応に加え、細かい機能追加も施されている。たとえば、S/MIMEによる暗号化されたメールの送受信、メールボックス自身の暗号化、中国語や韓国語など多言語への対応などがある。また、本文に「添付ファイルをご覧ください」などと書いてあるのに添付ファイルが付いていないと警告を出してくれる、少しインテリジェントな機能も加わった。



日本語入力のオンオフの自動切り替えやインデントも自動制御され、メールが書きやすい。メール作成画面もカスタマイズできる。

メールの連携



Shuriken Pro3で追加された機能は、LDAPやIMAP4をはじめとする、主にビジネスで使われる機能面の強化だが、前作のShuriken Pro2と同様、メールが多数溜まっても高速に動作する、曖昧検索ができる、携帯電話へメールを送る場合に文字数をチェックしてくれるなど、使いやすさを追求した便利な機能はそのまま引き継がれており、個人が利用する場合でもメリットは多い。Shuriken Pro3には、他のメールソフトからデータを取り込むコンバーターが付属しており、移行も容易だ。いままでのメールソフトに不満を感じているならば、使いやすさを目指した気配りに圧倒されるだろう。

(大澤文孝)



送受信の際はサーバーとのやり取りが表示される。カッコいいだけでなく、トラブルの原因究明にも役立つ。

Shuriken Pro3

OS	ウィンドウズ98/Me/2000 Pro SP2 以上/NT Workstation 4.0 (SP6a以上)XP
ハードディスク空き容量	30MB以上
参考URL	http://www.justsystem.co.jp/shuriken/
問い合わせ	インフォメーションセンター 東京 03-5412-3939 大阪 06-6886-9300

ウェブサーバー機能搭載 無線LAN対応のブロードバンドルーター

ブロードバンドAVルータ HN-RT1 3月7日発売
ソニーコミュニケーションネットワーク

販売価格: 29,800円(3月末日までキャンペーン価格24,800円) 当面はSo-net会員のみに販売

簡易ウェブサーバーとしても使える 無線ルーター

この製品の最大の特徴は、メモリスティックスロットを備え、メモリスティックに保存したファイルをウェブで公開する「ウェブサーバー機能」が付いている点だ。デジカメで撮影済みのメモリスティックを装着するだけですぐに配信できるのももちろん、管理画面から任意のファイルをアップロードし、それだけを配信することも可能だ。

HN-RT1の謳い文句は、「AVルーター」だが、これは後述するように、将来、AV家電を含めたさまざまな機器をコントロールできるようになるという意味で、現状ではさほど強い意味はないようだ。強いて言えば、特定のLANポートに対してAVデータのストリーミングを優先するQoS機能の存在が挙げられるが、LAN側ポートの優先順位をオン/オフで設定するにすぎず、帯域制御などの細かい設定はできない。これをQoS機能と呼んでもよいものかという疑問も残る。

HN-RT1のルーター部分は、標準的なブロードバンドルーターとほぼ同じで、機能面で特筆すべきことはない。UPnPに対応しているほか、パケットフィルタリングの設定をしたり、手動で特定のポートを転送したり、DMZ機能を使って特定のパソコンに全データを流したりする設定もできるようになっており、特殊なポートを利

用したゲームなどを使ううえでも問題ない。また、通信速度は理論値で97Mbpsと高速であるため、FTTH環境での利用でも十分なスループットが得られる。

無線LAN部分も802.11bに対応した基本的なアクセスポイントとしての機能を備えている。WEPによる暗号化やMACアドレスによる制限など、セキュリティー機能にももちろん対応している。

今後はプリンター共有や リモート接続も可能になる

HN-RT1は今後、ファームウェアのアップデートにより、さまざまな機能の追加が予定されている。HN-RT1は、24時間おきにSo-netの専用サーバーに接続して最新のファームウェアが存在するかどうかを確認する機能を持つ。存在した場合は、本体ディスプレイに表示し、簡単なボタン操作でファームウェアをアップデートできる。

まず4月に予定されているのがダイナミックDNS(DDNS)サービスの提供だ。この機能と先に説明したウェブサーバー機能を組み合わせれば、ドメイン名でのウェブ配信が可能となる。また同時期にプリントサーバー機能も提供され、背面のUSBポートにプリンターを接続すれば、プリンター共有ができるようになる見込みだ。さらには5月にはIPv6対応、夏にはVPNを使って出先から自宅のネットワークにログインできるリモート接続サービスや、サーバーとルーターが連動したセキュリティー機能も提供されると言う。

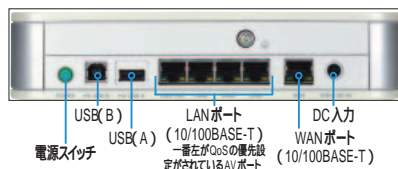
現状でも、これ1台でインターネットへの接続とウェブ配信ができるという点でメリットが高いが、今後予定されているファームウェアのアップデートにより、さらに使い道が広がっていくことが予想される。



前面液晶では、WAN側に割り当てられたIPアドレスの確認や新規ファームウェアの存在確認などができる。付属のスタンドで縦置きも可能。



メモリスティックに保存したファイルは、ウェブから見えるようになる。



電源スイッチ USB(B) USB(A) (10/100BASE-T) LANポート (10/100BASE-T) DC入力 WANポート (10/100BASE-T)



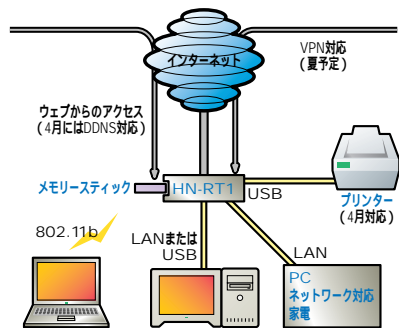
メモリスティックへのアップロードは、ウェブの管理画面から行う。FTPやウィンドウズ共有などには対応していない。

特にVPNサービスが始まれば、出先から家庭のネットワークにアクセスし、パソコンだけでなく、ネットワーク家電やAV機器も含めたコントロールができるようになり、So-netが提唱する「AVルーター」に近づいていくだろう。

(大澤文孝)

ブロードバンドAVルータ HN-RT1

無線LAN規格	IEEE 802.11b
セキュリティー	128/64bit WEP、MACアドレスフィルタリング
CPU/メモリー	400MHz/64MB
最大消費電力	16W
寸法	幅204 × 奥行231 × 高さ45(mm)
重量	約1.3kg
参考URL	http://www.so-net.ne.jp/router/



ウェブでデータベース化できる 健康チェックの簡易キット



web 健診 発売中
医仁会武田総合病院郵送健診事業部

キット価格：5,800円

ネット注文の簡単採血キットで 生活習慣病をチェックできる

一度病院で検査してもらわなくちゃあ……と健康状態が気になりながらも、忙しくて病院に出向く時間が作れないという人は多いのでは？

「web 健診」は、自宅で簡単に採血できて健康診断が受けられる検査システムだ。これなら忙しい人でも手軽に健康状態がチェックできるだろう。

ウェブ上で検査キットを申し込むと、一週間程度で手元に届けられる。手順に従って自分で採血し、返送用封筒に入れて郵送すると2週間程度で結果がわかる仕組みだ。数滴の血液で肝機能、腎機能、脂質代謝、糖尿病、貧血が調べられるようになっている。

キットの中身は、自分の病気の既往歴や身長・体重などを書き込むプロフィールシートと、採血セット、採血時に消毒するための消毒綿や止血テープ、返送用の封筒や採血したキットを適温に保つための保冷セットなどだ。プロフィールシートに、必要事項を記入して採血を行う。血の量が少なくと検査できないので注意しよう。採血器具は予備を含めて3つ用意されている。指先に採血器具で針を刺して自分で採血するのはちょっと怖い、痛みはちくちくとする程度なので意外に簡単だった。

採血が終わったら、採血プレートを2時間ほど自然乾燥させたあとに乾燥剤と一緒にビニ-

ル袋に入れ、あらかじめ凍らせておいた付属の保冷剤とプロファイルシートを返信用封筒に入れてポストに投函する。検査器具や消毒綿などすべての道具も一緒に返却するので、間違ってもゴミとして捨てないように保管しよう。

検査結果はウェブ上でも閲覧でき メールでの健康相談にも対応

検査結果は2~3週間後に郵送されるが、ウェブ上でも確認できる。一度利用すると専用IDとパスワードでデータが付与され、継続して検査したデータを比較して管理できるようになっている。データ保管の期限は特にはない。

検査項目によって何がわかるかの詳細な解説や、数値が高い場合に生活上何を改善したら

いいかのワンポイントアドバイスが読み、各検査の数値と標準値との比較がグラフで表示できる。心配な部分については専門医の診断を受けるようにアドバイスされる。さらにメールや電話、FAXで健康相談も受けられるなどいろいろと配慮されている。

採血キット1回分で5,800円はちょっと痛い、手軽な健康チェックとして年1回の習慣にしてみたいだろうか？ (いちばゆみ)



「web 健診」検査キット。ウェブ上で申し込める。



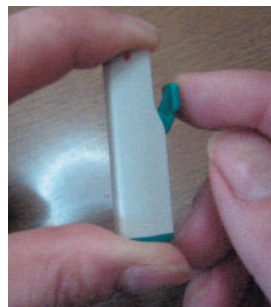
採血に必要な器具がすべて入っている。使用後は採血器具や止血テープもすべて返送するので、間違っても捨てないこと。



検査結果は郵送で届くが、ウェブ上でも確認できる。各項目の数値について標準値との比較ができる(グラフで見られる)評価判定ができるほか、検査項目の詳細やワンポイントアドバイスが受けられる。

web 健診	
申し込み方法	ウェブ指定フォーム
支払い方法	代金引き換え、クレジット
検査項目	栄養状態、痛風検査、肝機能検査、糖尿病検査、脂質検査、貧血検査、腎機能検査、体格指数
健康相談方法	メール、電話、FAX
参考URL	http://www.kizuitenet.com/
問い合わせ先	0120-356-717

- 利用の流れ**
- ウェブ(参考URL)で検査キットを申し込む
 - 届いたキットを使い、プロフィールシート記入後、自分で採血プレートに採血する
 - 採血後、返送用封筒に検査キットと保冷剤を入れて郵送する
 - 2~3週間後で結果が出る。ウェブでも検査結果を確認できる
- 利用上の注意
正しい結果を得るために、食後4時間以上経ってから採血を行うこと。採血後、返送用封筒の投函はなるべく午前中に行う。投函までに時間がかかる場合は冷蔵庫で低温保管すること。



採血器具は予備を含めて3つ入っている。つまみを取り、自分の指先に針先端部分をしっかり押し当ててレバーを押すと、針が刺さって採血できる。

高速無線LANを今すぐ手中に IEEE 802.11gは「買い」だ!

昨年末にチップセットがそろい始めたIEEE 802.11g対応無線LANが、ここきて発売ラッシュを迎えている。なかなか普及が進まない802.11aに対して、802.11gは発売直後から好調なスタートダッシュを決めている。そこで、すでに広く使われている802.11bとの互換性や性能差、そして802.11aは今後どのような道筋をたどるのかなど、無線LANの気になるあれこれ、最新動向をお伝えしよう。(梅垣まさひろ)

6月にも正式承認される IEEE 802.11gとは何か

802.11gはIEEEで定められた無線LAN規格802.11の拡張仕様の1つである。802.11の拡張には順番にアルファベットが割り当てられていて、この規格はTGg(タスクグループG)が検討を進めているものだ。802.11gは、すでに広く使われている802.11bと同じ2.4GHz帯の電波を使い、OFDM変調方式(後述)を用いて最大54Mbpsの通信を可能にした無線LAN規格である。現時点ではまだドラフト規格(暫定規格)で、6月ごろにIEEEの正式な規格として採択される見通しだ。

昨秋には複数の提案が衝突し、いったん規格が白紙に戻されるのではないかといった報道も流れて策定が危ぶまれた。だが、その後の調整でおおむね現在のドラフト規格にまとめられ、その後急激に802.11gの製品化が進んで現在に至っている。

802.11bの資源を 無駄にしない802.11g

802.11gの最大の特徴は、802.11aが新しい5GHz帯の電波を用いたのに対して、802.11bと同じ2.4GHz帯を用いて高速化を図ったことだ。これにより、802.11bの仕様を取り込んで互換性を容易に確保できたのである。実際には、802.11bの無線LANチップセットを拡張して802.11gに対応するチップセットを容易に開発できたと言ったほうが現実的に即しているかもしれない。アンテナや無線にかかわる部分も802.11bと同様に設計できるため、設計の困難さが付きまといコストダウンの難しい802.11aに比べて低価格化も可能というわけだ。

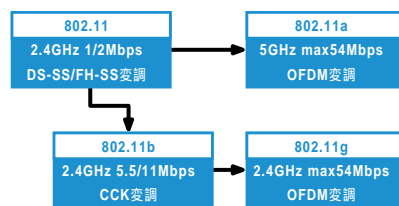
ただし、802.11bとの互換性を確保するために802.11aほど性能が出ないのではないかという危惧があるのは事実だ。メルコによる測定でも802.11gのほうが速度面では若干劣る結果が出ている。だが、ファームウェアの改良や独自に開発したTurboモードの採用などにより、速度的には遜色ないところまでできているようだ。実態としてはほぼ互角と見ていいだろう。

うれしい価格帯で 高速無線LANが手に入る

販売店などの調査によると、802.11gが店頭に並んですぐ802.11aの売れ行きを突破した。802.11bから802.11gへの移行がすでに始まっているようだ。たとえばメルコの802.11gのアクセスポイントとルーターのセットが、実売価格

24,000円で売られているが、同社の802.11bの同等セットが16,000円程度であることを考えると、現時点であれば802.11gのほうを選ぶだろう。数千円の差額で高速な無線LANが使えるとなれば迷うことはない。もちろん、大量に購入する場合には差が大きくなるが、家庭内で使う場合の差額はほとんど無視できる範囲だ。はっきり言って今となっては802.11bを選択する必然性はないに等しい。

802.11無線LANの主な規格



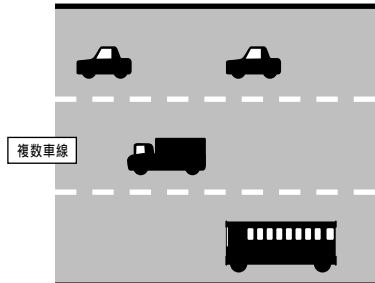
高速通信を可能にするOFDM変調方式

OFDMはOrthogonal Frequency Division Multiplexing(直交周波数分割多重)の略で、802.11aと802.11gで採用されているほか、地上波デジタルテレビ放送でも使われている方式だ。高速な移動体通信に向くとされている。高速道路にたとえると、通常のデータ通信は一車線の道路を走る車に相当する。これに対して、分割多重方式は複数車線を使った通信と言えるだろう。しかし、複数車線を確保するには、それなりの路幅(電波では帯域幅)が必要になってしまう。そこで、直交周波数という条件でぶつからないように帯域幅を密にしたのがOFDMなのである。限られた無線帯域で高速な通信を行うための変調技術だ。

通常のデータ通信



分割多重方式



802.11aとの違いを理解して どちらを使うかを選択する

802.11aと802.11gは電波こそ異なるものの最高速度は同じ。この2つの異なる無線LANをどう使うべきなのだろうか。前頁で触れたように、市場の動向は802.11gへの流れが主流だ。その理由はズバリ互換性だろう。802.11bの無線LANを導入したユーザーも802.11gなら混在させて使用できるが、802.11aとなると機器はすべて入れ替えということになる。また、距離が遠くなったり遮へい物があったりしても、802.11gでは通信できる。ただ、802.11gが完全に勝っているかと言うとそうとも言えない。理由の1つは、2.4GHzという電波がBluetoothや電子レンジなどの影響を受けてしまう点だ。電波の飛び交っている「汚い」2.4GHzに対して、802.11aの5GHzはきれいな帯域なので影響を受けないのだ。

今後54Mbpsを超える無線LANが普及してくると、2.4GHzだけではとてもまかないきれなくなる。802.11aと802.11gは共存しながらお互いの欠点を補って進化していくという道筋をたどらう。ただ、現時点での選択は802.11gが賢明であることは間違いない。

インテル、アイ・オー・データ、NEC 802.11a対応メーカーはどうする？

802.11a対応製品を販売している各社は、802.11gへの対応をどのように考えているか。802.11aを推進してきたインテルは、今まで802.11gについて積極的な発言をしてこなかった。しかしそのトーンは変わってきており、規格の承認を受けて対応製品を出す予定だ。特に802.11aが屋外使用できない日本では、802.11gが主流になると踏み込んだ判断に変わってきている。また、アイ・オー・データもすでに802.11g対応無線LANの開発を進めているとのこと、まもなく発表される見通しだ。NECもコストパフォーマンスに優れたものがあればどんな可能性も追求する、と意欲を見せている。802.11gはもはや無視できない存在になっているようだ。

aとgを賢く使った 無線ネットワークの作り方

オフィスなどで無線LANを使うことを考えると、802.11aは無視できない。というのも、802.11gは実質3チャンネルしか確保できないからだ。同じチャンネルを使った無線LAN同士では競合してうまく通信できないケースが発生する。802.11aを併用すればこのチャンネル数をさらに4つ増やすことができるので、併用すると最大

で7チャンネルの無線LANで同時に最大54Mbpsを使えることになる。たとえば、フロア内のLANには802.11aを使い、802.11bを各LANごとのブリッジに使うといった使い分けをしていけば、混信することなく安定した通信が望めるというわけだ。無線LANの端末が増えてくれば、当然電波は混んでくる。それを解決するには、802.11aと802.11gを併用するのがベストなのだ。もちろん、コンボタイプも普及してくるだろう。

802.11a/b/gの仕様比較

	802.11b	802.11a	802.11g
電波(周波数帯域)	2.4GHz帯	5GHz帯	2.4GHz帯
変調方式	CCK	OFDM	OFDM
最大通信速度	11Mbps	54Mbps	54Mbps
IPスループット	約4Mbps	約20Mbps	約20Mbps
実チャンネル数	4	4	3
周波数干渉			
802.11bとの互換性	-	x	
通信距離			
屋外使用		x(法律により禁止)	

a/b/g コンボタイプの動向

米国リンクシスは3月5日、802.11a/gコンボカード「Wireless A+G PC Card」(WPC54AG)を99米ドルで発売した。アクセスポイントやルーターも順次発売される。また、米国ネットギアも3月3日にコンボカード「Dual Band Wireless PC Card 32-bit CardBus」(WAG511)を発売している。どちらも日本での発売は未定だが、そう遅くない時期に発売されることは間違いない。ネットギアは、米国アセロスのAR5001Xチップセットを採用したが、米国プリズムの「Duette」やブロードコムもa/gコンボチップセットを開発していることから、両社のチップを多く採用する国内メーカーでもa/gの両方に対応した無

線LANを手がけるのは時間の問題だ。実際、メルコムも802.11a単独の発売はないとのことだが、コンボタイプに関しては可能性を否定していない。チップセットさえそろってくれば、業務用の高性能高機能機を基軸にしながらコンボタイプの無線LANも出そろってきそう。なお、チップセットメーカーの興味はすでに100Mbpsを超える無線LANに移っている様子。次の規格がどうなるのが興味はつきない。

米リンクシスの802.11a/gコンボカード「Wireless A+G PC Card」(WPC54AG)



メルコ WLA-G54を使ったスループット&通信距離テスト

過去の無線LANのテストで、802.11gが木造一戸建てで全体に電波が届くことはわかっている。そこで802.11gが屋外でも使えることを生かして、臨時的無線LANスポットを3階のベランダに設置し、どのくらいの距離まで通信できるのかを調べ、そのときのスループット値を測定した。測定場所ではできるだけベランダから見通せる場所を選んだが、どうしても家の屋根などの陰になっているため、かならずしも「見通し」とは言えない。したがって、メーカーの公表している距離とはやや違いが出てしまう。だが、実際に電波がどの程度届くのか、距離によってどの程度のスループットになるかを知る目安にはなる。参考に、屋内でもスループットの測定を行った。なお、測定には有線LAN側のFreeBSDサーバーにftpコマンドでputしてスループットを測定した。

802.11bと11gの混在環境でもスループットはまずまずの結果

802.11gは、802.11bと同時に使用するとスループットが落ちるのが弱点だと言われている。これは、本来のデータ通信では高速なOFDM変調による通信が行われるが、アクセス制御などでは802.11bと互換性を保つために低速になっているためだ。そこで、802.11b端末からpingコマンドで有線LAN側に置いたサーバーにパケットを送出しながら、802.11g端末からftpコマンド（put）でスループットを測定した。

[混在環境でのテスト結果]

通信速度の低下は見られたが劇的に遅くなるということはないようだ。なお、アクセスポイント側で802.11b互換モードを禁止してしまえばいつでも高速な通信ができるので、802.11bを使わない場合には、アクセスポイントを802.11gオンリーで設定するとより高速化が望める。

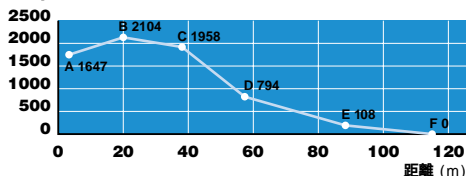
屋外でのスループット測定

距離は直線距離



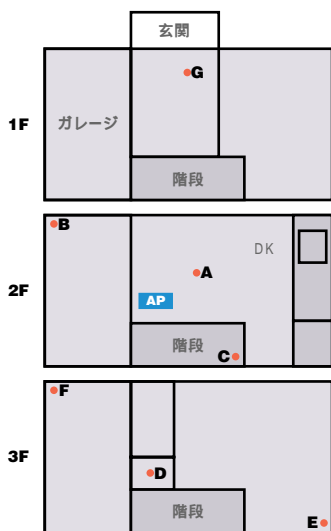
60メートル付近で802.11bの11Mbpsに切り替わる動作が始まった。また、110メートル地点ではつなげたり切れたりするため測定できなかったが、まったく通信できなかったわけではない。なお、80メートル付近に802.11bの電波が出ている家がいくつかあり、チャンネルを変更しても妨害されてしまった。この測定が見通しではないこと、802.11bアクセスポイントの密集地であったことからメーカーが発表しているほどの距離は出なかった。

KB/秒 [屋外でのftpスループット]



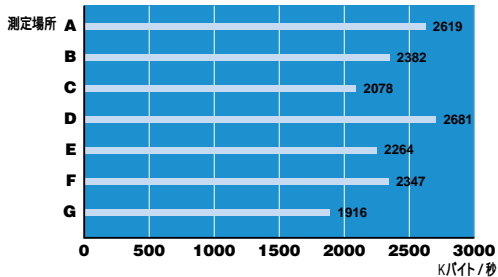
屋内でのスループット測定

[相互接続互換性テスト結果]

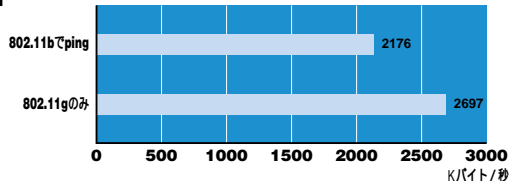


屋内では大きなスループットの低下は見られなかった。ただ、やはり壁の遮へい性が高かったようだ。床や天井は意外なほど通り抜けている。アンテナの設計が原因かもしれないが、アクセスポイントの電波は下方向にはやや弱いようだ。

[屋内でのftpスループット]



[802.11bと共存したときのスループット]



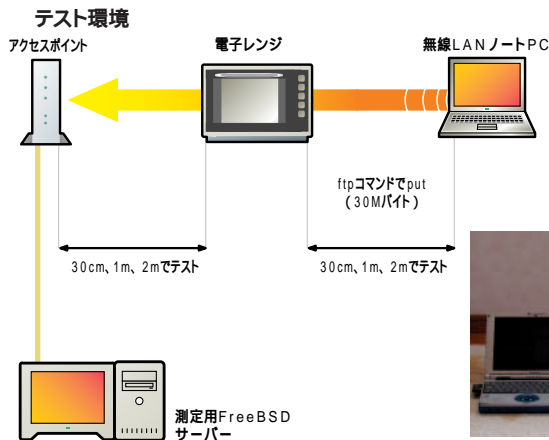
2.4GHz帯を使う802.11gは電子レンジの干渉に注意

802.11gの大きな欠点の1つが、同じ2.4GHzの周波数を用いる他の機器からの妨害に弱い点である。ISM(Industrial Scientific and Medical)バンドと呼ばれる2.4～2.5GHzの周波数には、アマチュア無線や移動体通信システム、省電力データ通信(無線LANなど)、温熱治療器などがひしめき合っており、さらに悪いことに電子レンジの周波数がちょうど2.4GHzである。また、Bluetoothも同じ2.4GHzを使う。

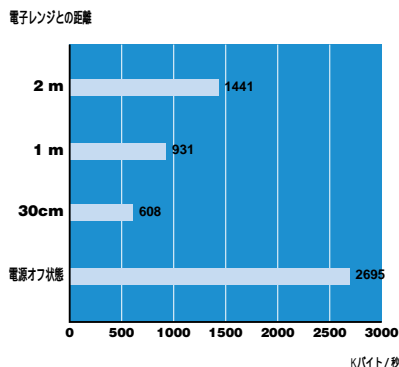
そこで、今回は家庭内でもっともよく使われている電子レンジが無線LANに与える影響を調べた。右図のように、アクセスポイント、電子レンジ、無線LANを搭載したパソコンを配置し、ftpによるスループットを3つのパターンで測定した。その結果、電子レンジとアクセスポイント、無線LAN端末の距離が30センチメートルのときに平均608Kバイト/秒と、電子レンジの電源がオフになっているときの2695Kバイト/秒に比べて4分の1以下になっていることがわかる。2メートルまで広げればその影響はかなり減少したが、影響を受けていないわけではない。ただ、あくまでも実験的に並べてテストしたからであって、家庭内では常時電子レンジを使っているわけではないし、電子レンジを避けて配置すればその影響を防ぐことはできるはずだ。しかし、ホームサーバーなどを使って無線LANで動画を楽しむ場合などは、気をつけたほうがいいだろう。電子レンジを使ったとたん、動画がぎこちなくなったりしたらそれは電子レンジによる妨害と考えられる。

ドラフト規格だが互換性OK 今買ってもまったく心配なし

ドラフト規格というといメーカー間の互換性がどうなのかが気になる所だ。そこで、WEP 128ビット暗号化をセットした状態で、相互接続のテストを行った。アクセスポイントは、メルコとリンクシスのみの結果だが、表のように互換性には何の問題もなかった。無線LANの基



[ftpスループット調査(put)]



本的な仕組みは802.11、802.11bの蓄積をベースに拡張されているので、すでに互換性への配慮は行き届いていると考えられる。ここでテストしたメーカーでは使用されている無線チップセットも異なるけれども、それらの互換性があらかじめ確保されているということだ。この調子ならば、正式に802.11gが認証されたあとにも、互換性にはまず問題はないだろう。

スループットの測定条件
スループットの測定は、ウィンドウズXPのftpコマンドを使って有線LAN(100BASE-TX)側に設置したFreeBSDのftpサーバーに30Mバイトのデータを5回putして行った。グラフの値はその平均値だ。無線LANは電波その他の状態によって測定値にばらつきが出るため、今回の測定データはあくまでも参考程度と考えてほしい。

・ウィンドウズXP Home Edition :
Panasonic CF-B5ER、メモリー 196Kバイト、CPU
ペンティアム 650MHz

・FreeBSD4.7:
メモリー 256Mバイト、CPU ペンティアム 1GHz

802.11gの次に来るのは...

802.11a/gコンボなどはすでに見えてきたが、この先無線LANはどうなるのだろうか？まず802.11aの拡張としてさらに速度アップを図る方向が見える。米国エンテラシスはすでに802.11aを2チャンネル束ねるシステムを開発済みだし、国内ではユニバリスが独自の方式で2.4GHz/108Mbpsの無線LANを開発したとの報道もある。100BASE-TXを本格的に置き換え可能な無線LANの実現も、時間はかかるかもしれないが着実に進むだろう。また、三菱商事はP2P技術を使ったアクセスポイント不要の無線LAN「MOTERAN」を開発した。高速化と合わせて、物的なネットワーク管理がいらぬ新しい技術も今後注目されてきそう。

相互接続互換性テスト結果

アクセスポイント	カード		
	WLI-CB-G54	WPC54G	AirMac Extreme
WLA-G54			
WRT54G			

規格承認後はファームウェアで対応 802.11gを先取りする

すでに述べてきたように、802.11gはまだドラフト規格だ。同様にドラフト規格で製品が次々と発売されて、異メーカー同士の互換性が大問題となった802.11(2Mbps/DS-SS方式)の騒ぎが思い起こされる。だが、802.11gでは心配することはなさそうだ。というのも、まず無線LANそのものが広く普及したため、「相互接続できなくてもしかたがない」とメーカーが言える状況にないということだ。下手すれば欠陥扱いされかねない。したがって、正式に規格が承認された場合には直ちにファームウェアのアップデートで対応が行われる。実際、今回紹介した4社は対応を約束しており心配無用だ。

また、相互接続に関しても、802.11gに対応するWi-Fi認証がスタートすれば、それに合わせたアップデートも考慮されるという。802.11g規格自体がほぼ固まっているという点からも、現時点でもGOできるのだ。

iBOX サーバーに 802.11g 対応製品登場

日本電算機のブロードバンド対応ホームサーバーiBOXが802.11gに対応する。無線アクセスポイント「airBOX」と無線LANカード「airCARD」のオプションを使ってiBOXを802.11g対応にする。これを使うと、有線LANのケーブルがいらなくなるので、802.11gを搭載したパソコンで離れた場所から録画したテレビを見られるほか、録画予約もOK。802.11bでは足りなかった通信速度も、802.11gならスムーズだ。



iBOX ブロードメディアサーバー
3月21日に発売された。オプションのairBOXも同時発売。従来機より薄型になり、BSチューナーも内蔵した。

AirStation G54 WLA-G54/P メルコ

価格: 25,500円

定番「AirStation」シリーズの802.11g対応機がこれ。802.11b対応モデルとほとんど同じ構成だと考えて差し支えない。チップセットはブロードコム製を採用。アクセスポイントに独自のTurboモードを搭載して、802.11b互換のために速度が低下するのを防ぐ仕組みを持つ。外部アンテナも豊富に用意され、電波が届かないまさかのときにも安心。



その他のラインナップ

標準モデル(アクセスポイントのみ) WLA-G54: 17,500円

CardBus用無線LANカード「WLI-CB-G54」: 9,800円

セキュリティーBroadBandルーターモデル「WBR-G54」: 20,500円

セキュリティーBroadBandルーターモデル、無線LANカードセット「WBR-G54/P」: 28,500円

PCIバス用無線LANアダプター「WLI-PCI-G54」: 12,800円

AirStation Pro G54 WLM2-G54 メルコ

価格: 78,000円

こちらはAirStationの業務用モデル。RADIUS認証やIEEE 802.1x/EAPに対応するなど、許可されたユーザー以外に使わせたくない無線LANを構築するにはこのレベルのアクセスポイントが必須だ。イーサネット給電(PoE)や電波出力の調整機能(予定)、AP間通信、リピーター機能など、業務用に必要な多くの機能を盛り込んだ高機能機ながらこの値段はうれしい。



corega WLAP-54GT set コレガ

価格: 24,000円

インターシルの「PRISM GT」を採用したコレガの802.11g対応無線LANのアクセスポイントとカードのセット。今までどおり設定ユーティリティを使って簡単に設定でき、今回紹介したアクセスポイントの中でもっともコンパクト＆スマートな家庭向けのお手軽な無線LANだ。価格も、カードが付いてこの値段。コレガらしい大胆な設定もうれしい入門機だ。



Wireless-G ブロードバンドルーターセット WRT54G/P リンクシス・ジャパン

販売価格：22,500円

ブロードバンドルーターでおなじみのリンクシスの802.11g対応無線LANルーター。国内ではあまり知られていないが、世界的には無線LANでも有名なメーカーだ。2本のダイバーシティーアンテナで電波事情の悪い場所で威力を発揮する。本体の設定はブラウザで行う。LANカードは専用のユーティリティーが使えるため簡単に設定できる。ルーター機能が豊富なのがさすがリンクシスだ。



その他のラインナップ

- 54M無線LAN PCカード「WPC54G」：7,900円
- 54M無線LANアクセスポイント「WAP54G」：15,500円
- 54M無線LANブロードバンドルーター「WRT54G」：15,500円
- 54M無線LANアクセスポイントセット「WAP54G/P」：22,500円

AirMac Extreme アップルコンピュータ

価格：ベースステーション標準モデル / 22,800円 AirMac Extremeカード / 11,800円

AirMac Extremeは、AirMacの802.11g対応版だ。カードは旧AirMacとは異なる小さな形状のため、AirMac Extreme対応のMacでないと使えないのが残念。だが、旧AirMacとの相性はばっちり。新しいPower Book G4を買って使いたい無線LANだ。もちろんベースステーションはウィンドウズからも利用できる。アップルも802.11gで決まりということだ。なお、設定にはMac OS Xが必須なので、要注意。



その他のラインナップ

- AirMac Extreme ベースステーション(モデム・アンテナポート内蔵モデル)：28,800円

802.11g(ドラフト)準拠の無線LANのアクセスポイントスペック一覧

製品名	WLA-G54	WLM2-G54	WLAP-54GT	WAP54G	AirMac Extremeベースステーション
メーカー	メルコ	メルコ	コレガ	リンクシス・ジャパン	アップルコンピュータ
周波数帯域	2.4GHz帯				
チャンネル	1 ~ 13ch				1 ~ 14ch(14は802.11b)
伝送方式	DS-SS、OFDM				
伝送速度 802.11g	54/48/36/24/18/12/9/6Mbps				
伝送速度 802.11b	11/5.5/2/1Mbps				
アンテナ	ダイバーシティー方式(内蔵)	ダイバーシティー方式(内蔵)	ダイポールアンテナ	ダイポール&スペースダイバーシティーアンテナ	内蔵
外部アンテナ(オプション)	接続可	接続可	なし	なし	なし
セキュリティ	64/128bit WEP、アタックブロック、ダイナミックパケットフィルタリング、VPNマルチパススルー、プライバシーセパレーター、Any接続拒否、MACアドレスフィルタリング	64/128bit WEP、MACアドレスフィルタリング、RADIUS、IEEE802.1x/EAP(5月上旬対応予定)	64/128bit WEP、MACアドレスフィルタリング	64/128bit WEP、MACアドレスフィルタリング(ルーターモデル「WRT54G」の場合はVPNパススルーなどをサポート)	64/128bit WEP、MACアドレスフィルタリング、NATファイアウォール、RADIUS認証(RADIUSクライアント機能)のサポート
設定ユーティリティー対応OS	Windows XP/Me/98/95/2000/NT4.0	Windows XP/Me/98/95/2000/NT4.0	Windows XP/Me/98/98SE/95/2000/NT4.0	Windows XP/2000/Me/98	Mac OS X v10.1.5以降
有線LANポート	10BASE-T/100BASE-TX 4個(Auto MDI/MDIX対応)	10BASE-T/100BASE-TX 1個(Auto MDI/MDIX対応)	10BASE-T/100BASE-TX 1個(Auto MDI/MDIX対応)	10BASE-T/100BASE-TX 1個(Auto MDI/MDIX対応)	10BASE-T/100BASE-TX 1個
本体寸法(幅×奥行×高さmm)	155×76×170	195×46×169	136×102×29	186×175×48	直径175×高さ80
重量(本体のみ)	445g	620g	210g	480g	565g



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp